

～関係機関が一体となって流域治水をより一層推進～
～関係機関の取組を詳細にフォローアップ～

1. 概要

米代川流域の関係機関が連携・協力し、水害に対する減災対策及び流域治水に取り組むため、減災対策協議会及び流域治水協議会を開催しました。協議会では、規約の改定、米代川流域治水プロジェクト2.0の一部修正について提案し、承認を得ました。また、流域治水のより一層の推進に向け、各機関の取組状況等についてのフォローアップを行い、各機関が取組実績を報告し、意見交換を行いました。

2. 実施状況

日時：令和6年10月22日（木）10時00分～11時40分

会場：能代河川国道事務所 第1会議室

（WEB会議併用）

出席：能代市長、北秋田市長、大館市長、鹿角市長
小坂町長、藤里町長、上小阿仁村長、八幡平市長
秋田県総務部危機管理監、農林水産部長、建設部長
岩手県農林水産部長、県土整備部長
国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター 東北北海道整備局長
東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所長
東北森林管理局 米代東部森林管理署長
気象庁 秋田地方気象台長
秋田内陸縦貫鉄道(株) 代表取締役社長
東北運輸局 鉄道部長
能代河川国道事務所長 （一部代理出席）

3. 主なご意見・コメント等

【能代市長】

・能代河川国道事務所には、河道掘削や堤防整備、樹木伐採などの米代川の整備、また、大雨の際に排水ポンプ車が足りない時には、他県から車両を持って来るなどお力添えをいただき感謝申し上げたい。
・昨年、悪土川の内水氾濫により300棟を超える住宅被害があった。現地を視察した際、田んぼを活用できていたら被害状況が変わっていたかと思った。田んぼダムの取組をぜひ進めてほしい。

【北秋田市長 代理：総務課長】

・北秋田市では3年連続水害が発生しており、今年7月の大雨で阿仁地域では記録的短時間大雨情報が発表され、猛烈な雨により、土砂災害が多数発生し、住家等にも被害が出た。
・今後とも流域治水の推進、減災に向け、協議会の皆様と積極的に情報共有をしていきたい。

【大館市長】

・近年の気候変動による記録的な大雨の頻発は水害リスクを大きく高めている。そのため、地域が一体となって治水対策を推進する米代川流域治水プロジェクト2.0の取組をさらに推進する必要がある。

【鹿角市長】

・河川と災害は非常に密接な存在であり、総合的な対策が非常に大事だと改めて感じている。各機関と連携を密にして事業を進めていきたい。

【小坂町長】

・本日の協議会において、各機関の取組など様々な情報をいただいた。気を引き締めて災害に強いまちづくりに取り組んでいきたい。

【藤里町長】

・米代川の能代地区河道掘削事業においては、藤琴川合流点より下流の流下能力が向上することにより、支流である藤琴川の安全にも大きく寄与すると考える。今後も計画的に河道掘削事業を継続してほしい。

【上小阿仁村長】

・今年7月の豪雨の際、能代河川国道事務所からのTEC-FORCEの派遣、秋田県からの技術職員の派遣、近隣市町からの給水タンク車の配備、農政局からの農業用水供給の支援など皆様方から大変ご支援をいただき感謝申し上げます。

【八幡平市長】

・今後ますます想定外の事象がおこる可能性があり、近隣自治体を含めた連携あるいは協力体制の強化が今以上に必要になると思う。

